

～人材不足を解決する 県内初の組合の形～

奥会津かねやま福業協同組合

今回ご紹介する奥会津かねやま福業協同組合は、県内初の特定地域づくり事業協同組合です。昨年施行された新たな法律に基づき、国、県、市町村等の助成を得て、組合事業として“人材派遣”を実施しています。特定地域づくり事業協同組合は、地域事業者の人材不足の解消、地域経済の活発化を促すものとして大きな注目を集めています。

金山町のご紹介

金山町は、会津地方の南西部、奥会津といわれる地域にあります。町の周囲は緑豊かな山々に囲まれ四季折々に神秘的な景観を見せてくれます。夏には「沼沢湖水まつり」、冬には「会津かねやま雪まつり」、近年では外国人が行きたい日本の観光地第2位に選ばれた「奥会津の只見線と霧幻峡の渡し」などで話題になるなど多くの観光客が訪れています。

また、特産品として有名なのが「天然炭酸水」や「奥会津金山赤カボチャ」です。天然炭酸水は古くから薬泉として親しまれてきました。日本でも数少ない天然炭酸水の湧き出る場所として有名です。奥会津金山赤カボチャは、お尻の部分にある「へそ」が大きく出っ張っていて、一般的なカボチャよりも強い甘みを持ち、肉厚でホクホクとした食感が特徴です。

総面積の90%が森林地帯で、人口は約1,900人、約1,000世帯であり、高齢化率は約61%と東北でも有数となっています。



奥会津かねやま福業協同組合の取組み

奥会津かねやま福業協同組合は、今年4月に福島県で初めて（全国で13番目）※「特定地域づくり事業協同組合」として設立されました。高齢化率が高くなっている金山町の企業の担い手不足を解消するとともに、派遣職員が様々な業種を経験することで新事業創出のきっかけになることや、金山町だからこそできる生き方や価値の創出を促進することで、地域社会の維持及び、地域経済の活性化に資する事を目的としています。

現在、組合には4名の派遣職員が在籍し、組合から派遣された職員は、金山町で様々な業種につき、仕事に励んでいます。今後、派遣職員を増やしながら、活動の幅を広げていく予定です。組合事務所は、金山町自然教育村会館（旧玉梨小学校）を利用し、地域に根ざした組合づくりを行っています。組合の取組みは県内ニュースでも数多く取り上げられ、先進的な事例として注目されています。



組合事務所のある金山町自然教育村会館（旧玉梨小学校）



組合に所属する4名の派遣職員

特定地域づくり事業協同組合とは

地域人口の急激な減少に直面している地域において、農林水産業、商工業等の地域産業の担い手を確保するための特定地域づくり事業（マルチワーカーに係る労働者派遣事業等）を行う事業協同組合に対して、組合運営費の1/2を国、県、市町村等が補助する財政支援、労働者派遣事業を許可ではなく届出で実施する事が可能となる制度的な支援等を行う「特定地域づくり事業協同組合制度」を活用した組合を指します。

星事務局長にお話を伺いました！



事務局長 星 賢孝さん

組合設立のきっかけは何ですか？

この組合がつくられたきっかけとなったのは、町議会議員の方が特定地域づくり事業協同組合制度について他県の事例を新聞で知ったことが始まりです。県内で最も高い高齢化率となっている金山町では、働き手を確保し、町を活性化させることが必要でした。総務省から制度について説明をいただき、他の議員の皆様にもご理解をいただきました。その後、中心となる事務局を据え、金山町と協力しながら、組合設立に向けて動き出したのです。

設立の際に苦労したことは何ですか？

全国でも数件の事例しかなかった特定地域づくり事業協同組合の設立は、分からないことばかりでした。県内初の事例でもあり、県や町とともに制度を理解する必要がありました。

また、組合事務局として、福島県、金山町、労働局、中央会など、多くの関係機関への事前相談や確認を行うことが大変でした。この制度では、町からの補助金で組合からの派遣を行うことから、関係機関への手続きなどが通常の組合設立よりも多くて苦労しました。

特定地域づくり事業協同組合として派遣を行うことのメリットは何ですか？

派遣職員にとって良いことは、「自分の時間」を確保できることです。職員によって、月の勤務日数は様々で、月に20日の人も居れば、10日の人もいます。派遣先の仕事と自分の時間を両立させることで、職員それぞれの目標に向かって取り組んでいくことが可能です。

組合員（派遣先）にとっても、忙しい時期や数時間だけなどピンポイントで人材がほしい時など組合員同士で人手をシェア出来ることは画期的な制度だと思います。地域の人材不足の解消だけでなく地域の活性化にもつながり、実際に「やってよかった」との声をいただいております。

今後の組合活動について教えてください

移住・定住というのは地域振興の核となるものであり、今後も組合活動を展開していくことで、金山町への地域貢献を目指して取り組んでいきたいと思っています。これからは冬の時期を迎えますが、業種によっては、派遣の需要が減るものもあります。組合としては、除雪関係など冬に求められる仕事を増やしていく対応していく予定です。

また、組合事業が安定し、余裕が出てくれば地域おこし関係にも取り組んでいきたいと考えています。

派遣職員 金澤さんにお聞きしました！ ～海外にも有名になった「霧幻峡の渡し」の舟頭に～



金澤次郎さん
福島市から金山町に移住し、今年の7月から沼沢湖畔
キャンプ場やDom' Up 沼沢湖に派遣されています。

組合について知ったのは、地域に移住したい人と地域の人をマッチングする移住スカウトサービスである「SMOUT」を見たときです。自然を介して地域貢献をしたいと考えており、応募しました。カヤックやスキーのインストラクターの経験もあり、金山町の自然については昔から良く知っていました。20年、30年前から心で思っていたことが形になったと感じています。

訪れた観光客の皆さんに、どう滞在期間を延ばしてもらおうのかを考えながら、将来的には新しいアクティビティを提供できればと思っています。

組合の今後について、目黒祐一代表理事からお話を伺いました！

組合の派遣事業を通して、金山町にUターン・ターンなどで移住される方も増えてきました。移住された方は地元で新しい風を生み出し、金山町を活性化してくれると思っています。現在、組合に4人の派遣職員の方がいますが、今後5人、10人と増やし、組合活動の幅を大きくできれば、今以上に地域の活性化ができると思います。

また、事業として難しい点は、仕事の需要が季節によって変わっていくことです。特に冬は、需要が大きく減る季節です。除雪などの仕事を取り入れて、対応して行くことが必要と考えています。将来的には、介護老人ホームなどの、より人材が求められる職場への派遣を行いたいと考えています。

組合で働きやすい環境を整え、職員の方が安心して派遣先で従事できるよう努め、今後も地域との繋がりを大切にしながら、地域貢献を目指して取り組んでいきたいと思っています。



日本の原風景「霧幻峡の渡し舟」

約50年前に廃村になった金山町三更集落と対岸を結んでいた只見川の渡し舟が復活しました。この地ではかつて生活の足として手漕ぎの渡し舟が利用されており、夏の朝と夕方にたちこめる川霧に包まれ、まるで夢のような景色になることから「霧幻峡」と呼ばれるようになりました。

2010年秋に、昔ながらの和舟が2艘建造されました。住民の足であった霧幻峡の渡しは、観光客を乗せる足に変わり、「手漕ぎの和舟に乗り、50年前の日本の原風景にタイムスリップする」という、自然と歴史と文化のロマンを繋ぐ役割を担うこととなったのです。



〈組合概要〉

名 称：奥会津かねやま福業協同組合
代表理事：目黒 祐一
組 合 員：17社
住 所：大沼郡金山町大字玉梨字
上中井1384番地
T E L：0241-42-7888
U R L：https://kanefuku.org/